

# 自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

4/18

事業所名: ニチケアセンター英賀保

作成者: 石丸瑞穂

作成日: 2022年 3月 29日

運営推進会議における評価実施日: 2022年 月 日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進 会議 における 自己評価	記述
<b>I 理念・安心と安全に基づく運営</b>						
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	B	「家庭的な雰囲気の中でその人らしく生活していただける施設、ご家族様や地域の絆、地域のふれあいをおいせつにし、安心して暮らしていただける」という理念を職員全体で共有し、毎日ケアに取り組んでいる。		
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	B	今年度はコロナ禍による自衛で軒並み行事が中止になった。買物も感染予防のため同伴できない状況が続いている。		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	B	運営推進会議は3月より実施できず報告のみになっているが、報告書をメンバーのところに持参して話し合ったり、意見交換したりしている。ご指摘に対しては真摯に受け止め、改善にとり組んでいる。		
4	市町村との連携	市町村担当者とは頃々連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	C	グループホーム連絡会はコロナ対策を実施しながら参加している。延滞市の出前講座による研修に参加して他ホームの現状等意見交換をし協力関係を築いている。		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、互いの権益を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	B	身体拘束防止委員会の実施を毎月行い、身体拘束になりうる事業の検討をおこなっている。また職員ミーティングにて委員会での話し合いを共有し、考える場を提供して対策を検討している。		
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	B	定期的な研修を実施し、虐待に関して話す機会を設け職員の虐待防止の意識を高めている。また、お客様へのケアだけではなく、職員のストレスが溜まっていないかの確認をし、スタッフの心のケアに努めている。		
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	B	現在は成年後見人が必要な方がおられないが、制度の必要性を理解し、関係者を紹介できる様に人や他事業所とのつながりを持つようにする。		
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	B	契約には十分な時間を費やし、利用者様の質問等にも答えながら行っている。内容について納得していただけた上で契約していただいている。介護報酬改定時も運営推進会議での依頼を随時提供し、契約時に状況の重複化についても話し、対応策を考えていただいている。		
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	B	ご利用者様からは常にご意見を聞かせて頂き、家族様には来所時やお電話があった時に意見を伺っている。年に一度、顧客満足度調査を実施してご意見や要望をお伺いしている。		
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	B	年に1回は職員の意見を聞いて、仕事に打ち込みやすい職場になるよう意見を交換している。		
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や業務、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	B	ユニット会議・全体会議を行い、意見をみなで共有しお仕事の課題などの話し合い。また、日本の中で最良や問題点があった時は、その改善策を出来る環境をできるようにしている。またお仕事の改善化により職員が不満がなくなることもあり、管理者が不適切な言葉遣いや態度に気づいたときは、その都度個人的に声をかけて改善している。		
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	B	社内でのスキルアップ制度を活用して個々のスキルアップ・意欲向上につなげるように努力している。職員の希望体にも出来る限り見えるように「お互い様」の精神で協力している。		
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	C	社内研修の参加・外部研修への参加を随時呼びかけ、自己啓発に取り組めるように提案している。個々のスキルに合わせた個人指導も行ってはいる。新人のOJTに時間をかけて不安なく業務を行えるように支援している。		
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	B	ニチイの有料老人ホーム、デイサービス、訪問介護、グループホームで研修を行い、各サービス間で交流を図っている。地域包括等や隣接の研修には、管理者・計画作成担当者も参加出来るようにスケジュールを調整している。		
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	B	家族様・知人による訪問がある方とそうでない方に分かれるが、ご家族様に電話して訪問していただけるように配慮を致している。コロナ禍につき、面会は1日2家族様、2週間の後、玄関での面会、Web面会の対応になっている。		

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニデイケアセンター英賀保

作成者: 石丸瑞穂

作成日: 2022年 3月 29日

運営推進会議における評価実施日: 2022年 月 日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進 会議 における 自己評価	記述
II. その人らしい暮らしを促げるためのケアマネジメント						
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	B	ご本人様の思いや暮らし方をしっかり聞き取り、支援に当たる。日ごとの音声を聴取することで、その方の新たな思いを感じ取れるように職員に常に意識を高く持ち、意向の把握が困難なときでも家族様とも相談しながら対応している。情報を職員間で共有し、お客様の状況に応じた支援を皆で考えようとしている。		
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	B	ご家族が来られた際は、状況をお伝えしている。何か課題・問題点があればその都度職員・ご家族様に相談しながら対応している。		
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	B	日々の状況は介護記録に記入しているが、変化があれば日誌に記入し職員間で共有している。全てのことを報告できる様に管理者が仕事の終了時には職員に声をかけるようにしている。		
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	C	現状お客様をインフォーマルなサービスに繋げることは出来ていない。		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	B	住診医・訪問看護・自治会長・民生委員・ボランティアさんに支えられて運営している。しかしコロナ禍で外部との交流を図ることが困難になりつつある。		
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A	医療からのかかりつけ医による受診が協力の受診が困難な場合は、かかりつけ医に説明し、医師にお願いし、どちらを選んでも適切な医療を受けたいというように実現している。コロナ禍で有難が家の方のみ対応もある状態を御家族様に報告して家族様から医療機関に伝えて頂く様にしている		
22	入院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	B	入院時は日常生活に必要な情報を提供している。ご家族の希望等を日頃より伺い病院にも伝達している。退院時には退院時カンファレンスに参加している。サマリーなど必要な記録を病院担当者から提供していただいている。		
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	B	医師側の方針を説明している。可能な限り生類を継続していただくように家族・医療関係者に相談している。医師が突然お亡くなりになる、施設での生活を継続できないので、ターミナルケアも含めお客様の希望を把握して医療機関に相談している。時代の生活が難しい状況になってきたら家族様に報告し、ご本人にとって幸せな生活の場が何処にあるか相談して次の生活の場所も一緒に検討している。		
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	B	マニュアルを利用し緊急時の対応と連携方法についての研修を行っているが、緊急時に何をまず実施すべきかは常に指導している。救急搬送に必要な書類や状態を記載した連携手帳を作り常時フロアに設置している。		
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、星夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	B	年2回の避難訓練を実施し、その内の1回は消防署職員から災害時の対応方法について指導を受けている。		

# 自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名：ニチケアセンター英智保

作成者：石丸瑞穂

作成日：2022年 3月 29日

運営推進会議における評価実施日：2022年 月 日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会議 評価 における 外部評価	記述
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	B	様々な人格・価値を尊重しお客様と顔・目を合わせて丁寧な言葉で話をするように心がけている。しかしながら家族のようなゆるやかな雰囲気も大切にしている。職員の中には福州弁が強く不適切な言葉遣いも見られる為、その態度は忘れて改善する様に指導を行っている。		
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	B	人員が不足すると、どうしても介護度の高い方の介助が優先されることがある。		
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	B	季節を感じ取れるような食材による料理を提供している。見た目も大事なので色合いにも配慮した食事提供を心がけている。お客様ができることを見極めながら、調理や皿洗い等の作業を依頼している。		
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	B	体重管理も必要に応じて行い、食事量・水分量も一覧表で把握できるように管理している。嚥下機能に応じてトミ剤、キザミを使用し、お客様の状態・習慣に応じた支援をしている。		
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A	毎食後の口腔ケアの実施と半年に一度のLIFEによるチェック。お客様によっては歯科医の往診によるケアを行う事で菌性肺炎のリスクが低下している。家族様のご協力もあり一人一人の状態にあった口腔ケアの方法を実施できている。		
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A	自力で排泄可能な方でもベッドが濡れる前には職員が駆けつけている。自力での排泄が難しい方に対しては、排泄リズムを把握し定期的にトイレ誘導を行っている。体調に合わせてオムツやパンツを利用していただき、排泄で失敗が無い様に清潔面にも配慮しながら支援している。		
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	B	お客様のご希望に沿った入浴は、時間帯や職員の人員配置が合わず行えないことがある。入浴日に関しては、同じ時間帯で入浴していただけるよう対応している。また、外出等の時はその都度状況に合わせて対応している。		
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休憩したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	B	夜間の就寝についてはお客様の状況に応じて誘導している。昼間の静養に関しては、静養時間が長くなるように適宜声掛けをしている。		
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A	服薬の変更等があったときはお客様の様子観察を行い、異変があればすぐに往診または家族様に連絡して相談し、指示を仰ぐようにしている。副作用については職員間で情報共有している。処方箋のついでフロアに設置して職員が理解できるようにしている。		
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活力や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	B	お客様のお好きなことをお聞きして、歌を奏しんだり、好きな物や食べ物を購入するなど楽しんで生活を継続していただけるように支援している。		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、事故は行かないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のみなさんと協力しながら出かけるように支援している	C	コロナ禍で外出は控えていただいている。		
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	C	お客様によるお金の管理は難しいので、お小遣い金として上限1万円を預かり、希望に沿ったものを購入させて頂く形で管理させていただいている。		
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	C	事務所でお客様の要望があればご家族様に連絡をしている。年賀状にはお客様にも一言書いて頂くようにしている。		
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を盛り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	B	リビング等に季節に合った壁面・写真等を飾っている。室内温度は季節に合った温度に調整している。目に優しい照明を付けて明るさを調整している。冬は、床暖房を点けることで足元の冷えを予防し、健康面に配慮している。		

# 自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチイケアセンター英賀保

作成者: 石丸瑞穂

作成日: 2022年 3月 29日

運営推進会議における評価実施日: 2022年 月 日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会議 における 外部評価	記述
IV 本人の暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)						
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	B	何を望まれているかご本人の希望を汲み取り、ご本人の意向に沿った暮らしができる様に対応している。		
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている	C	アセスメントを活用し、計画作成担当者が職員にお客様の生活歴や習慣等の情報を提供して、お客様の状況に応じた支援をしている。		
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	B	お客様の体調を観察しながら必要に応じて適切な援助を行っている。		
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている	B	今までできていたことが継続して行えるように支援をしている。ご本人のペースと習慣に合わせた生活ができるように支援している。		
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができている	C	自室にはご本人のなじみのものを置いていただけるように心がけている。		
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができている	C	コロナ禍の為外部との接触に制限はあるが、感染予防を徹底しながら家族様との繋がりをもって頂ける様にしている。		
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができている	B	お客様が出来る事は職員が声をかけて、楽しみながらできることの継続を大切にしている。		
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場を日々の暮らしの中で得ることができている	B	いつでも職員と笑顔で会話できるような、笑いが絶えない生活の場を目指している。		
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている	D	現在はコロナ禍により、近隣地域との交流を図ることは難しい。		
49	総合	本人は、このGHIにいてことで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	C	家族様と会えない状況であり不安が多いが、職員はお客様に笑顔で生活していただけるように介助を継続し、常に研鑽を積みながらサービスを提供していきたい。		

総評

現状におけるご指摘事項・事業所の課題

参加者サイン欄

代表者 石丸 瑞穂 佐藤 章 面会状況

帳票D

事業所名ニチイケアセンター英賀保

作成日：令和 4年 4月29 日

作成者：石丸 瑞穂

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	17	介護計画、アセスメント、モニタリングを職員が参加できておらず意見が反映されにくい	職員の参加を促し担当者がお客様の状況を伝えよりご本人に寄り添った計画を作成する	担当者がモニタリングを実施し計画書を確認して意見を出せるようにする。	6ヶ月
2	23	重度化、終末期の説明や話し合いはできているが今後看取り加算が増えることに対する説明ができていない	お客様と家族様の意向を再度確認し看取りを実施していく準備と理解をして頂く	加算の説明と以降の確認と必要な書類の作成を行い、職員が看取りに対して研修の中で理解をする	8ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。